

問 海岸線の白砂青松を守る施策は

答 クロマツ林『リジェネプロジェクト』



光風会
恵利 いつ 議員

問 村松海岸で松くい虫によるマツ枯れが広がっている。千々乱風伝説の砂嵐を防ぐためにも村松海岸の松林を守ることは大切。被害は海岸松林の何割程度に広がっているか。被害拡大防止のためにこれまで投入した費用とその対応は。

答 平成24年頃から被害が拡大し、現在は全体の5〜6割程度に広がっているとみられる。被害拡大防止と松林再生のために平成28年度からの10年間で約6000万円投入し、薬剤散布や枯れ木の伐倒およびくん蒸処理等



村松海岸の松林を守るためにスーパーエリートの高抵抗性クロマツ苗を植樹

で対応。加えて、抵抗性クロマツ苗の植樹等を行っている。また、「東海村松くい虫防除対策連絡会」を組織し、適切な防除対策の推進に努めている。

問 被害が広がると、防除対策に人手とお金がかかる。県内で外来カミキリムシによるサクラ枯れ被害が発生。拡大している。サクラがクロマツと同じ道をたどらないためにも、早期の対策が不可欠。

答 情報の共有を強化し、早期の発見と適切な対応に努める。

問 消防団員不足と管轄区割り再編は

答 段階的に進めることも含め検討が必要



新政とうかい
川崎 克彦 議員

問 これまでの担い手不足への対応と成果、管轄区割り見直しの取り組み状況と今後の方向性は。

答 担い手不足は全国的課題であり、村では報酬額の段階的引き上げや広報を、各分団では地域イベント参加による入団を促進。現時点で成果は明確ではないが、他市町村の事例も参考に引き続き対応する。管轄区割り見直しは、分団長会議で現7区分をコミセン同様の6区分に再編する案を提示し、各分団長や団員と情報共有・意見照会に取り組んできた。

今後、意見集約後に円滑な再編を進める。

問 人口動態や地理的条件など、客観的データに基づく検討は。

答 重要な視点であり、今後の研究課題の一つとする。



毎年開催されている消防団夏季訓練

問 消防団改革に向けた実行体制は。

答 検討組織の設置は意見照会結果を踏まえ判断。現状の団員数は高充足率で、災害対応の協力体制も構築済みである。再編は地域理解や影響の大きさを見極めつつ、段階的に進めることも検討が必要。